

第8回全国500歳野球大会実施細則

- 1 選手 の 登 録 チームの登録は、チーム代表者（部長）、監督、コーチ、主将、マネージャー、スコアラーを含む30人以内の選手等とし、ベンチに入れる人員も同様とする。ユニフォームを着用しない登録者に関しては、年齢を問わない。
- 2 ベンチ及び攻守
 - (1) 組み合わせ番号の若い番号のチームを一塁側とする。ただし、1チームが2試合続けて行う場合はベンチの入れ替えは行わない。
攻守は当該試合の球審の立会のもと、トスで攻守を決定する。
 - (2) 打順表は、大会本部で配布（全チームへ郵送。二回戦以降は試合終了後勝利チームに配布する。）するものを使用することとし、第一試合においては試合開始30分前までに本部に提出し、照合を受けるものとする。
 - (3) 第二試合以降は本部にチーム到着の旨を告げ、本部の指示を受けるものとする。なお、試合開始時刻になっても到着の連絡がないチームは原則として棄権とみなす。
- 3 試 合 形 式
 - (1) 本戦は7イニング制のトーナメント方式とし、1時間50分を超えて新しいイニングに入らない。また、5回以降10点差によるコールドゲームを適用する。ただし、決勝戦は時間制限、コールドゲームを適用しない。
 - (2) 7回終了時または1時間50分経過時点で同点の場合はタイ・ブレイクを適用する。タイ・ブレイクは0アウト1・2塁で行い、打順は継続打順とし、走者は打者の逆順とする。（決勝戦は7回終了時点で同点の場合、適用する。）次回以降も前イニング終了後からの継続打順とする。
 - (3) 本戦1回戦敗退チームを対象に交流戦を実施する。ただし、秋田県内チームは対象としない。交流戦参戦チームは大会初日午後6時30分まで大会事務局へ申し出るものとする。交流戦は5イニング制とし、1時間30分を超えて新しいイニングに入らない。同点の場合は、引き分けとする。（コールドゲーム、タイ・ブレイクは適用しない。）
 - (4) 競技場区画は投手～本塁間16m。塁間23m。両翼～本塁間80m、中堅～本塁間90m。バッターボックス区画やベース類は一般用のものを用いる。
 - (5) 投手、野手にこだわらず一度ゲームを退いても、何度でも出場できる。ただし、投手がイニングの途中で退いた場合、同イニングでの再登板は認められない。
 - (6) 55歳までの投手が投球出来るのは、アウトカウント12を取るまでとし、56歳以上の投手に制限は設けない。ただし、タイ・ブレイクに至った場合は年齢制限を除外する。
 - (7) タイムの制限：「監督またはコーチが投手の所へ行く回数」、「守備側」、「攻撃側」が1試合中に要求できるタイムは、それぞれ3回までとする。なお、タイブレイク時は1イニングにそれぞれ1回要求することができる。野手（捕手も含む）が投手の所へ行った場合、そこへ監督またはコーチが行けば双方1度として数え、逆の場合も同様とする。
 - (8) 試合の規則は「全国・全県500・550歳野球大会特別ルールブック最新版」を適用する。

- 4 競技上注意事項
- (1) 大会使用球（ケゴボールM号）及びロジンバックは大会本部で用意する。
 - (2) ユニフォーム・装具等
ユニフォームは同一チームと認識できるように、全員同色・同形・同意匠のものを着用することとし、装具は公認野球規則に規定されているものとする。
※詳細については、「特別ルールブック」P2及びQ&Aを参照すること。
 - (3) シートノック及び練習会場等
シートノックは5分間とする。ただし、大会運営上、シートノックを行わずに試合を開始することもある。
 - (4) スコアシートの確認
対戦した両チームの代表者は、試合終了後、大会本部で作成したスコアシートの内容を確認しサインする。その際に、勝利チームへ個人カードの返還と次試合の打順表を交付する。
- 5 大会特別規定
- (1) 試合は7回戦とする。（試合成立は5回終了時とする。）
 - (2) 降雨、日没等により続行が不可能となった場合は、5回以降の均等回の得点で勝敗を決定し、その他の場合は特別継続試合とする。
 - (3) 雨天による一部中止をしても、試合可能な球場等に場所と時間を変更して行う場合（日没等含む）がある。この場合は大会本部より連絡する。
 - (4) 前項の問い合わせは、混乱を避けるため各チームの代表者が行き、周知する。
 - (5) 大会本部・審判員の決定に従わず、大会の権威を汚す行為（ボイコット等）をした場合は没収試合とする。
 - (6) この細則は、想定される競技運営上の決定事項であるが、想定されない事項が発生した場合は大会本部役員及び審判員が協議のうえ決定する。